

# 令和7年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・初見の文章を読み、その文章に対しての自分の感想や意見を文章で表現すること。 ・紙の辞書とタブレットで検索を比較しながら学習し、適切な語彙の選択ができるように工夫していくこと。	・お互いの意見文を読み合ったり、意見を交換したりするための交流場面を毎時間つくり、自分の考えの幅を広げる機会とする。【発見・対話】		
数学	・計算の分野も図形の分野も、市内平均を下回っている。 ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着が課題である。	・基礎的・基本的な計算練習を週1回以上実施し、自己の学習の定着度を確認させる【発見】 ・問題の解法や考え方を共有し、他者の考えから主体的に学ぶ機会を増やす。対話を通してより良い解法を導かせる。【対話・決定・発見】		
理科	・身のまわりの自然事象と授業で学んでいることが結びついていない。 ・物事を科学的に思考、判断し、論理的に表現する力が身に付いていない。	・身近な自然事象や科学の時事的なニュースを導入に用いるなど工夫する。【発見】 ・授業内で思考、判断、表現する機会を増やす。また、発問を工夫する。【対話・決定・表現】		
社会	・基礎的・基本的な知識及び技能の習得が不十分である。 ・資料から読み取る力や、推測して思考判断表現する力が不十分である。	・小テストやワークシートの点検を行い、定着度を確認し、個に応じた指導を実践する。【発見】 ・課題に対する自身の考えを表現しやすいように、資料提示や発問の仕方を工夫する。また、グループワーク等を通じて、他者に自分の意見を述べる機会を提供する。【対話・決定・表現】		
音楽	・既習事項を表現活動に活かすことができず、音楽の知識と表現が十分に結びついていない。	・導入部分で既習事項を確認し、その知識を学習活動の中で必ず活用できるように課題を設定する。【発見】 ・多様な場面で音楽に関する言葉を用いながらアウトプットさせ、知識・技能と思考・判断・表現を結び付けることにより、学びの定着を図る。【発見・対話・表現】		
美術	・計画的な学習や制作作業が苦手である。 ・完成度を高めるためのビジョンを持つ力が弱い。	・見通しをもって取り組ませるために本時の予定と実際の作業を記入させ、進捗状況を意識させる。【決定・表現】 ・タブレットで由来を調べたり、作家や先輩の作品を参考にしたりして、完成のイメージを明確にする。【発見・表現】 ・試行錯誤を繰り返し、完成度を高める。【対話・表現】		
技術	・学習した知識・技能が、実際の社会や産業の場面などで活用できる力として身に付いていない。 ・作品製作の授業で自身の作業工程や、完成作品の課題を発見する力が弱い。	・学習した知識・技能を社会でどのように生かされているのか、具体的な例を提示しながら、思考し、判断、表現できるようにする。【決定・表現】 ・社会の中の問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、製作品によってどのように解決したか振り返る学習を取り入れる。【発見】		
家庭	・学習した知識・技能が実際の生活場面などで活用できる力として定着していない。 ・作品製作の授業で自身の作品の課題を発見する力が弱い。	・学習した知識・技能を生活でどのように生かしていくか具体的な例を提示しながら、思考し、判断、表現できるようにする。【決定・表現】 ・生活の中の問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、製作品によってどのように解決したか振り返る学習を取り入れる。【発見】		
保健体育	・新体力テストの結果から、巧緻性・瞬発力・全身持久力の能力が低い。 ・各種目において自身の課題を解決する力が弱い。	・体力向上を図るため毎授業時、補強運動を取り入れる。特に巧緻性・瞬発力・全身持久力の向上を想定した種目を重点的に取り組む。また、生活の中で活用できる知識を育成する。【表現】 ・自己課題の解決法を自ら考える場面を設ける。また、タブレットの活用を推進していく。【発見・決定】		
外国語	・基礎基本の定着を図れていない生徒が一定数いる。 ・書くことに対して苦手意識をもっている生徒が多い。	・授業の最初に既習事項を扱った言語活動を継続して行い、繰り返し使用する場面を設ける。 ・授業内のコミュニケーション活動で会話をすることを、ノートに書く機会を増やす。単元の終わりに基本文の確認を行い、小テストを実施する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない  
で、2学期末、年度末に評価する。

# 令和7年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を把握し、作者や筆者の主張を捉え、文章を要約すること。</li> <li>多くの作品に触れ、他者と交流し、自分の表現の幅を広げること。</li> <li>課題に対して、感じたことや考えたことを、発表活動を通して伝えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開を理解し、単元ごとに要約する機会を設定する。【決定・表現】</li> <li>随筆、短歌、意見文等の文章を書き、他者の作品を鑑賞する機会を多く設定する。【発見・対話・決定・表現】</li> <li>日常的に発表の場を多く設け、各学期に1回ずつ課題を設定した発表を実施する。【発見・対話・決定・表現】</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的基本的な知識・技能の定着が不十分。</li> <li>日常の現象を的確にとらえ、思考・判断・表現する力。</li> <li>既習事項を生かし日常の様々な場面で問題解決に結びつける力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に小テストを実施し、定着度を確認する機会を設ける。【発見】</li> <li>グループ活動を効果的に取り入れ、考えたことを共有し、吟味する機会を増やす。【対話・決定・表現】</li> <li>日常の現象を導入に用いるなど工夫する。【発見】</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な科学法則と学習した規則性や法則性を、現実の事象と結びつけて説明すること。</li> <li>身のまわりの自然事象を、科学的根拠に基づき考え方や、そこから論理的に思考し表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験で得たデータの信頼性を検証するとともに、科学的な根拠に基づいた思考の時間をつくり、自然事象について説明する課題を設定する。【発見・決定・表現】</li> <li>科学的根拠があるかどうか振り返ることや、他者の意見を共有する活動を行う。【発見・対話】</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図や資料、データの読み取りをする力。</li> <li>学習内容をもとに文章にまとめ、論理的に記述する力。</li> <li>書かれている文章を読み取り、正しく理解する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や資料集に載っているものをもとに自ら考え、グループで共有する。【決定・対話・表現】</li> <li>小単元ごとに振り返りや学習のポイントを整理して記述し、適宜フィードバックを行う。【表現】</li> <li>課題や発問の中心になるものをとらえさせ、注目するポイントを明確にする。【決定・表現】</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能の定着が不十分で、それらを活用した音楽活動に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の発表に対して、教員や仲間が音楽に関する言葉を用いて価値づけを行い、意識的に共有する場面を設けることで、音楽の知識・技能と思考・判断・表現を結び付け、資質・能力の育成につなげる。【発見・表現】</li> <li>デジタルを活用し、学習内容の可視化や振り返りの共有を行うことで、すべての生徒が学びに参加できる仕組みをつくる。【発見・対話・表現】</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画性をもち作業を進めていく力が弱い。</li> <li>自由な発想をもち、具体化し制作する力が弱い。</li> <li>既習事項を活用したり、応用したりする力が弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって取り組ませるために、制作カードを記入し、進捗状況を明確にする。【決定・表現】</li> <li>様々な作品の鑑賞を行い、発想や感性を伸ばす。【発見】</li> <li>協力して考える場面と個人作業の両方を取り入れ、発想や感性を伸ばす。【表現】</li> <li>既習事項の振り返り、知識・技能を活用する場面を設定する。【発見・表現】</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習が授業の中心と考えてしまう生徒が一定数おり、解決方法の表現の一つとしての実習という流れを理解できていない。</li> <li>身の回りの技術を、客観的に評価するなどの経験が乏しく、より良くするためにどうすべきなのかという改良、応用の視点がもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物育成の技術において、問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、育成実習の問題点を見出し、解決方法を思考し実践する学習を取り入れる。【決定・表現】</li> <li>身の回りの問題点に目を向け、改良点を思考する課題に取り組む。【発見】</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容をもとに自身の生活の問題を発見し、課題を見出し、解決する力が弱い。</li> <li>既習事項を次の学習につなげることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の生活を振り返り、問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、どのように解決したか振り返る学習を取り入れる。【決定・表現】</li> <li>既習事項とどのようなつながりがあるか詳しく説明をしていく。また生徒自ら気付くことができるよう発問を工夫する。【発見】</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの結果から、スピード、巧緻性・瞬発力、全身持久力の能力が低い。</li> <li>各種目において自身の課題を解決する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全時間、各種目に応じた補強運動を取り入れる。特に、20m シャトルラン、ボール投げの記録を高めることに重点をおくことで、体力の向上を図る。また、生活の中で活用できる知識を育成する。【表現】</li> <li>自身の課題の解決方法を自ら考える場面を設け、お互いが相互に意見交流ができる場を設ける。また、タブレットの活用を推進していく。【発見・決定】</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>英単語の綴り・発音・意味や文法事項・意味・使用方法を正しく理解する力が弱く、定着できていない。</li> <li>既習の言語材料を用いて、自分のことや身近なことを表現する力が弱い。</li> <li>英文の内容を早く正確に読み取る力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で継続して英単語や文法事項の形式練習を行うとともに、単元テストに向けた学習を通じて言語材料の定着を図る。【発見・表現】</li> <li>授業の後半に目的・場面・状況を設定した表現活動を設定し、言語材料を活用する場面を作る。【対話・表現】</li> <li>教科書本文のオーラルイン托福や内容理解のための発問を行い、読解力を高めていく。【発見】</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない  
で、2学期末、年度末に評価する。

# 令和7年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで、自分なりの課題を見出し、解決すること。</li> <li>読み手を説得できるように論理の展開などを考え、文章の構成を工夫すること。</li> <li>文章を批判的に読みながら、文章に現れているものの見方や考え方について評価したり考えたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが課題設定をして、自由に相談し合いながら、自分のペースで進めていける授業。【発見・対話】</li> <li>生徒が日常生活で目にするものを資料として用いたり、見本や型となる例文を用意したりする。【発見・表現】</li> <li>文章を比較して読んだり、観点ごとに文章を評価したりする。【発見】</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域における基本的な数学的用語の意味理解(知識)</li> <li>文章から数量の関係を見出したり、図形から分かることを見出したりする力(思考・判断・表現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本事項の定着を図るために問題演習や確認テスト等をこまめに(習熟度ごとの生徒に実態に合わせて、週に1~2回程度を目安に)実施する。</li> <li>生徒の学習意欲が「技能」に集中しないよう、授業内で適宜声掛けを行う。</li> <li>学習した言葉を用いて生徒同士が言語活動を行う時間をより増やす。</li> <li>問題文に線を引いたり問題図に印をつけたりするなど、情報を整理したり集約したりする練習を行う。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの自然事象を、科学的根拠に基づき考えることや、そこから理論的に思考し表現することを苦手とする生徒がいる。</li> <li>物事を順序立てて思考することを苦手としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力が求められる問い合わせ多く設定する。【決定・表現】</li> <li>科学的根拠があるかどうか振り返ることや、他者の意見を共有する場面やタブレット用いて調べる時間を作る。【発見・対話】</li> <li>物事を順序立てて考えられるように発問を工夫する。【発見・表現・決定】</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的基本的な内容の確実な習得</li> <li>資料やデータを分析し、読み解く力。</li> <li>社会的事象についての自分の考えや主張をまとめる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元を細分化し、各課題に対して自分なりの考えをまとめ。【表現】</li> <li>授業内で自分の考えを他者と共有する時間をとり、思考を深める。【対話・表現】</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりに気付いているが、それを根拠に自分の言葉で音楽を批評することを苦手としている。</li> <li>自分の課題を発見し、目標に向かってどのような学習が必要か考え選択し実行する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を形づくっている要素に気付きやすい教材を準備し、他者と交流しながら批評の根拠を明確にする活動を多く取り入れる。【発見・対話】</li> <li>表現の型を示し、批評文を書く際の支援を行う。【表現】</li> <li>振り返シートを共有可能な形式で参照し、他者の視点に触れることで自己的振り返りを深める。【発見】</li> <li>複数の学習方法から選べる活動を用意し、生徒が自らの課題に応じた学び方を選択できるようにする。【決定】</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に製作時間を意識して作業を進めていくことが苦手。</li> <li>既存のものでなく、オリジナリティあふれる自由な発想を展開する力が弱い。</li> <li>課題をふまえたテーマの設定、構成力を更に向上させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作カードを記入し、毎時間の進捗具合を意識させる。【発見・決定】</li> <li>既習事項をもとに、今後の生活全般で生かせる実践的な技術や知識を身に付ける。【発見】</li> <li>お互いに意見を出し合い、試行錯誤し、完成度を高め、見解を深めることで、達成感・充実感を高める。【対話・表現】</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習とのつながりを意識できていない生徒が一定数おり、これまで見出してきた問題点を、情報の技術で解決するという思考ができない。</li> <li>既存の製作品や周囲の生活環境を、客観的に評価するなどの経験が乏しく、より良くするためにどうすべきなのかという改良・応用の視点を持つ必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の技術の学習において、これまで見出した問題点に対して、新たな、より良い解決方法を思考する学習を取り入れる。【発見】</li> <li>身の回りの問題点に目を向け、改良点を思考する課題に取り組む。【発見・決定・表現】</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を相互に関連付けてより深く理解することができない生徒が一定数いる。家庭科だけではなく他の教科との関連も意識して取り組むことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の確認をし、現在の社会の姿に目を向け、よりよい生活を目指すための課題解決学習を実践する。【発見・決定・表現】</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの結果から、スピード・巧緻性・瞬発力・全身持久力の能力が低い。</li> <li>各種目において自身の課題を解決する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種目に応じた補強運動を取り入れる。特に、20m シャトルラン、50m 走、ボール投げの記録を高めることに重点をおくことで、体力の向上を図る。また、生活の中で活用できる知識を育成する。【表現】</li> <li>自身の課題の解決方法を自ら考える場面を設ける。また、タブレットの活用を推進していく。【発見・決定】</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の考えを理解し既習事項を活用して自分の意見を伝えたり、相手とやり取りしたりするようになる。</li> <li>単語の綴りや発音・アクセント、文法事項を覚え、正確に表現する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのことや考え方等をペアやグループで話して伝え合ったり、書いて読み合ったりする言語活動を継続的に行う。【発見・対話・決定】</li> <li>教科書以外に副教材等を活用して多くの英文に触れ、インプット量を多くする。基本事項を繰り返し確認して表現活動につなげる指導を継続する。【発見・表現】</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。